

ごみ減量化に一人ひとりが取り組みましょう！

たり約139グラム、つまりお茶碗一杯分を捨てていることと同じ量となります。



これは、世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食料援助量(約320万トン)の約2倍の量です。別の言い方をすれば、この量は、日本人一人1日当たり約139グラム、つまりお茶碗一杯分を捨てていることと同じ量となります。

食品ロスについて知ろう

今回は、ごみを減らすためのキーワード「食品ロス」について、考えてみましょう。

みんなで考えよう シリーズ 5

ごみ処理の現状

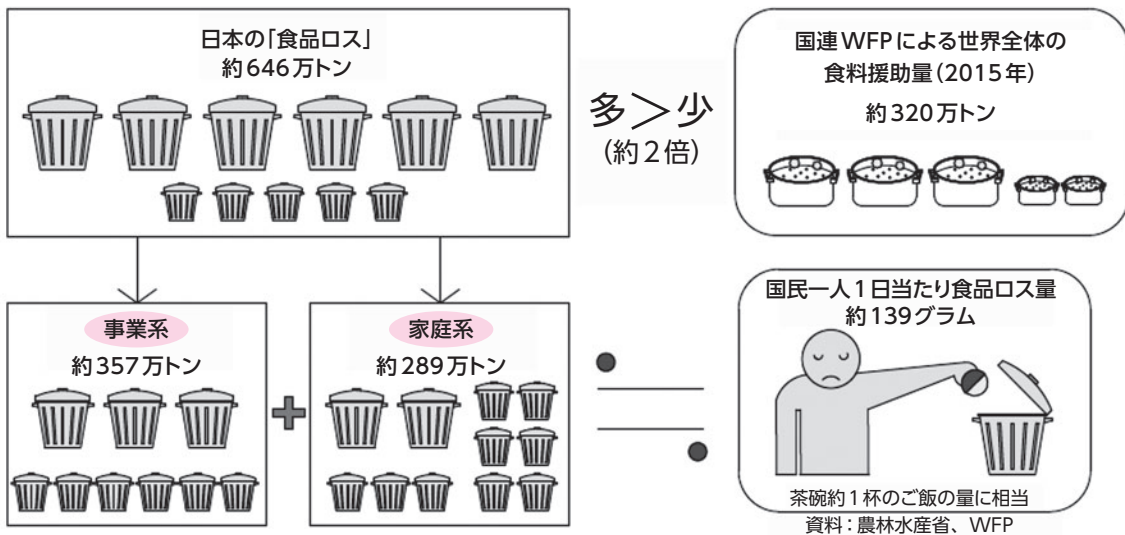
市では、長年使用してきたごみ焼却施設に替わる、新ごみ焼却施設建設の検討をすすめています。

ごみの発生抑制や処理については、市民の皆さまのご理解とご協力が必要であり、ごみ処理事業に関する情報をシリーズで提供しています。

今回は、ごみを減らすための方策として家庭から発生する食品ロスや食べ残しを無くすための3010運動などについて紹介します。

問合せ 生活環境課 ☎35-3138

●日本の食品ロスの状況



食品ロスを食材別に見ると、最も多いのは野菜、次いで調理加工品、果実類、魚介類です。その理由として、「鮮度の低下、腐敗、カビの発生」や「消費期限・賞味期限切れ」などが挙げられます。

そのほか、調理の過程で、野菜の皮剥きや肉の脂身の取り除きなど、食べられる部分を過剰に捨てていることも食品ロスの原因になっています。



- 買いすぎ → 調理されずに... 直接廃棄
- 長持ちしない保存方法
- 作りすぎ → 食べられずに... 食べ残し
- 好き嫌い
- 調理技術の不足 → 食べられるのに... 過剰除去
- 過度な健康志向

食品ロスの約半分は家庭から

食品ロスの約半分は家庭から発生しています。家庭から出る生ごみのうち、約3割がまだ食べられるのに廃棄されています。

その中には、手つかずの食品が約2割あり、さらにそのうち4分の1は賞味期限前にもかかわらず捨てられているものです。